

親子まち歩き第2弾

「親子で歩こう、兵庫津の道」を開催しました。

こうべまちづくりセンターでは、親子でまちを歩き、日頃何気なく歩いている「まち」の魅力を再発見してもらうとともに、親子で楽しく共通体験を作り上げることを通して、地域のまちづくりやコミュニティに関心をもってもらうきっかけづくりとするため、11月5日の日曜日に「親子で歩こう、兵庫津の道」を開催しました。これは、昨年8月に開催した「親子で歩こう RetroKOBE (旧居留地)」に続く第2弾です。



まち歩きの途中で「まちのお宝」を調査する参加者

参加者の皆さんからは、「ちょっと歩き疲れたけど、いい運動になった」「大きな大仏がとても印象的だった」「今度はお隣さんを誘って、ゆっくりと歩いてみたい」などの声が聞かれ、親子いっしょの楽しい一日を送りました。

来年は皆さんも参加してみませんか。さて、場所はどこにしようかな……………



「兵庫津の道」の説明をする井上会長
当日は、秋晴れの中、事前に申し込みのあった親子13組(39人)と、飛び入りの3人の方を加えた参加者が、およそ2時間、兵庫津の道周辺のまち歩きを行い、その後マップづくりを楽しみました。また、岡方協議会の井上慶一会長からは、兵庫津の道の歴史について、興味深いお話を聞かせていただきました。小さな子には少し難しい話でも、お父さんが噛み砕いて話してあげている姿には、微笑ましいものがありました。



成果の発表をする参加者

「こうべ・まちなみ倶楽部 まちなみゼミ」開講

～神戸のまちなみを楽しむ，心地よいまちなみをつくる～

神戸市都市計画局とこうべまちづくりセンターでは、今年度から、市民の皆さんに神戸らしいまちなみや景観を勉強していただく「こうべ・まちなみ倶楽部／まちなみゼミ」を開講しています。

この一連の講座は、都市の景観や優れたまちなみとは何かを講義と実習を交えて勉強していただくもので、講座の進め方としては、受講者がただ椅子に座って聞くだけではなく、いろいろな形で参加していただくようにしています。

10月12日から開講し、第1回目は「神戸のまちなみ景観」というテーマでの講義、第2回目はまちなみウォッチングで兵庫津の道を歩き、第3回目は「景観の資源と要素」についての講義でした。

また3回目からは、前回の講義に関連する課題について参加者からレポートを出していただき、講義の最

初にその内容を紹介するという形をとり、多くの方から力作をいただきました。

今後も、参加者が楽しみながら活発に交流・意見交換していただけるよう、「花と緑にふれよう」という実習や「景観形成のルールづくり」の事例紹介など、多彩なプログラムで2月8日まで全7回実施する予定です。

なお、この講座を終了された方で希望者には「まちなみサポーター」になっていただくこととなります。「まちなみサポーター」とは、都市景観やまちなみの形成に対し多くの知識と意欲があると認められた方のことで、将来地域のまちづくり活動の中で、景観やまちなみに関するリーダーとなっていられることが期待されます。



第2回 まちなみウォッチング「兵庫津の道を歩く」

(10月26日)

さわやかな快晴のもと、歴史ある兵庫津のまちなみや史跡を訪ねました。



第3回 講義「景観の資源と要素」

(11月17日)

景観と地域の特性や生活の営みとの関わりについて、イギリスの田園都市などの事例をもとに、神戸芸術工科大学の齋木教授にお話をいただきました。

参加者から熱心な質問が出されました。

●まもり、そだて、つくる

「歴史的なものの何を残して、今にどう活かすのか」前回にあげた課題を少し掘り下げてみたい。

北野の異人館保存が契機となって「神戸市都市景観条例」が制定されたのは昭和53年、条例の前文にある「神戸らしいまちの景観をまもり、そだて、さらに新しい神戸らしさをつくりだす」ことが、その後のまちなみ保存や景観行政の基本理念となった。つまり歴史的なものを守るだけでなく、それらを今に活かして新しいものを創り出すことも同様に重視されているのである。

北野では、これを受けて、伝統的建造物である異人館を保存するための修理基準、異人館とほぼ同様の建物を建てるための修景基準、歴史的な景観を意識しながらも新しい北野らしさをもつ建物を誘導するための許可基準の3つの基準が作られた。

しかしこの中で、異人館風の建物を建てるための修景基準は一度も使うことがなかった。他の町並み保存地区では、新築の際、歴史的な建物にデザインを合わせることもむしろ一般的であるにもかかわらず……。そのいちばんの理由は、異人館そのものが建設当時は新奇な建物であり、そういう新しいものを常に受け入れてきた神戸の開放的な気風を受け継いでいくには、過去にこだわり歴史をある時期で止めてしまうような異人館風の建物はむしろ、北野らしさ、神戸らしさに逆行すると考えたためである。

●基準に頼るな

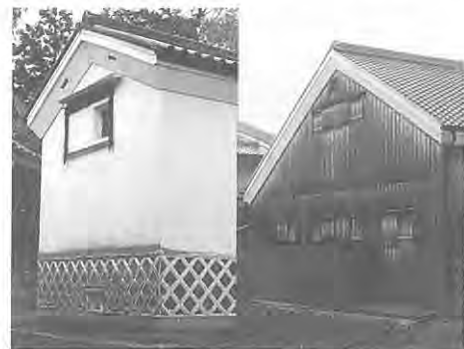
こうして北野では、異人館を守るための修理基準と新たな北野らしさをつくるための許可基準（都市景観形成地域では地域景観形成基準）の2本立でまちなみ保存を進めていった。許可基準は、高さ13m3階建以下、道路・隣地からの建物の外壁後退1~1.5m以上、数値基準はこの程度、あとは「周囲の景観と調和のとれたものとする」という抽象的な内容で、しかも景観形成上優れた建物であれば、高さ制限を除いて他の基準は緩和できるという極めて弾力的なものである。建築のデザインは一律の基準で決めてしまえるものではない、という思想がその根底にある。

この融通無碍(ゆうづうむげ)な基準を使うにあたり、私は「基準に合っているからといって、それが北野らしい建物とは限らない。基準に頼らず、ひとつひとつ北野にふさわしい建物かどうかを考えよう。」そう思いながら景観誘導を行ってきた。

とはいえ無手勝流(おてかてりゅう)の主観的判断だけで行政指導はできない。建築計画や相談が持ち込まれるたびに現地へ行って、計画地の周辺に何があるのか、残さねばならないものや風景があるのか、その場所に建物が建てばどこからどのように見えるのかなどなど、相手にも納得してもらえる評価軸を自分の中で作っていった。

有名な安藤忠雄氏の建築計画に文句をつけたこともあった。もちろん基準は満たしているし、建築のデザインは私などがケチをつけるようなものではない。敷地周囲に高く壁を建て、周辺からの影響を受けないようにして内部で純粋な空間を創る、という設計趣旨が開放的な北野の伝統に合わないと考えたのである。協議して壁を低く押さえてもらうことで落ち着いた。

つまり建物の良し悪しではなく、まちなみや地域の伝統に合う合わないの問題なのである。



●歴史的に在った形、無かった形

地域の伝統に合う合わないに関して時々起こる話に、歴史的なデザインを持ち込んだつもりが実はその地域にはその形は過去に無かった、というのがある。

灘の酒蔵地域で、酒蔵＝和風の伝統を意識してナマコ壁(写真左)の建物を計画してきたことがあった。ナマコ壁は土蔵などに使われるもので、木造である酒蔵の外壁は、伝統的に焼杉の板張り(写真右)なのである。「設計者は善意でやっているのだし、どちらも和風なのだから、そんなに頑なに考えなくてもよいのではないか。」といわれそうだが、後に見る人たちに誤解を与えてもいけないと思い、変更してもらった。

歴史的なものは結構やっかいなところがある。現在も歴史の一部なのだから、今を軽視し過去にこだわりすぎるとダイナミックさを失ってしまうし、適当にあしらうとしゃべ返しをくらう。青臭いようだが、今のものにも昔のものにも真剣に向きあうことで歴史を活かすヒントが見えるのではないかと、思っている。

浜田有司(住宅局住環境整備課係長)

まちづくり会館来館者50万人達成!



神戸市立まちづくり会館は、住民主体のまちづくりを進めるための拠点施設として平成5年11月15日に開館しました。平成7年の阪神大震災では、一時避難所となり機能が途絶えましたが5月末には機能を回復し、被災した市民の方のすまいやまちの復興支援を神戸市と協力しながら進めてまいりました。

50万人目の来館者は、11月2日午後2時ごろ静岡県豊橋市からご家族で観光にこられた滝川 桃子さんで、記念の認定書と副賞を受け取られました。

「この日は市内で宿泊し翌日は、予定を変更して副賞の夢風船のチケットで空中散歩を楽しむ。」と喜んでいただきました。

まちづくり会館からののお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
11月30日(木)~12月5日(火)	いろいろ展(写真・絵画等)	横江 久美子
12月7日(木)~12日(火)	第14回朝の会創作展(デッサン・水彩等)	朝の会
12月14日(木)~19日(火)	神戸サンフォトクラブ展(写真)	神戸サンフォトクラブ
12月21日(木)~26日(火)	921台湾大地震記録写真展	林 藝斌
1月11日(木)~16日(火)	神戸大学写真部部展	神戸大学写真部

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

12月1日(金)~26日(火)	高田屋嘉兵衛パネル展	兵庫区まちづくり推進課
12月10日(日) 午後2時・4時	パチュニアサロンコンサート	元町4丁目商店街・アスク音楽院 こうべまちづくりセンター

図書販売のお知らせ

コンパクトシティ持続可能な都市形態を求めて 協働のまちづくり・すまいづくり	¥3,000	別途送料を申し受けます。 申し込みは、当センターまで
一震災復興土地区画整理における共同建替の記録一	¥1,500	

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
(こうべまちづくり会館 3F)
電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
受付は、月・火・木・金曜の午前10時~午後5時
- 土・日・祝日は
まちづくり相談コーナーで受け付けます
(こうべまちづくり会館 4F)
時間は、午前10時~午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館 4F)
会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
受付:午前10時~午後6時(水曜・年末年始は休館)
電話 078-361-4565



「あーばんとーく」では、これからも皆様に親しまれるニュースを提供したいと考えております。

読者の皆様からのご意見、まちづくりに関する耳寄りな情報、まちの話題等の投稿をお待ちしています。